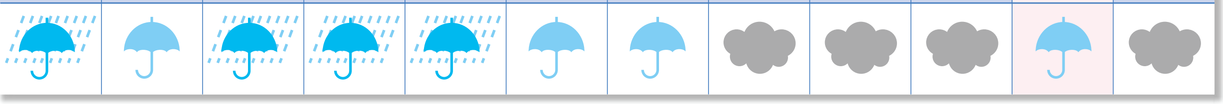
地域の景気動向　2024年3月調査

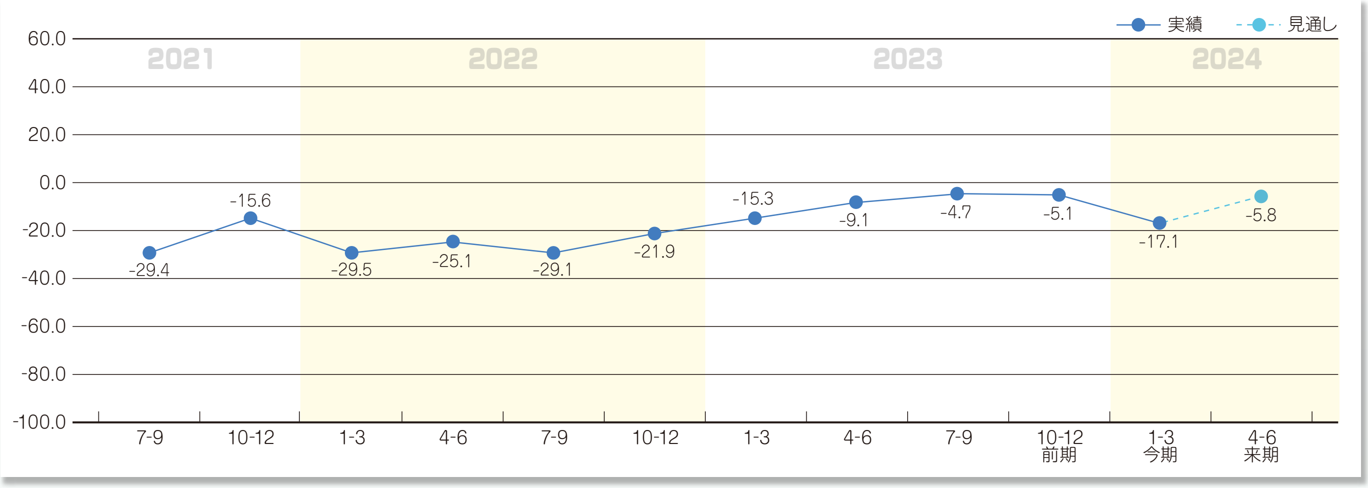
全業種　回答数310社

今期の業況D･Iは、前期比12.0ポイント低下の▲17.1となり、悪化。自動車メーカーの不正問題の影響が大きく、製造業を中心に、卸売業、サービス業で悪化。来期の予想業況D･Iは、11.3ポイント上昇の▲5.8の見通し。建設･不動産業を除くすべての業種で改善を見込む。

業況D･Iの推移

2021 7-9月	10-12月	2022 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2023 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月 前期実績	2024 1-3月 今期実績	4-6月 来期見通し

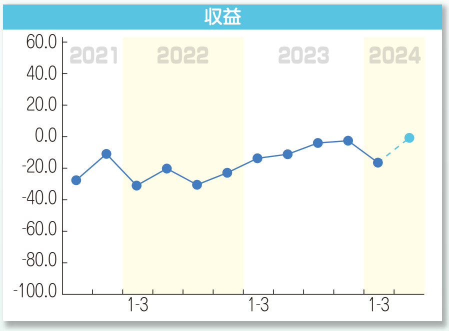


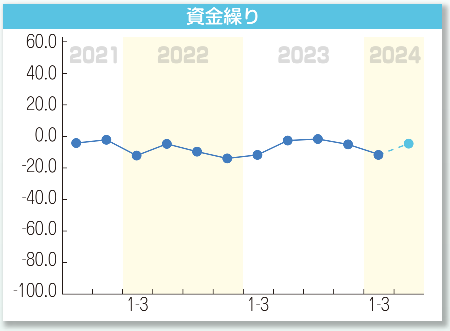


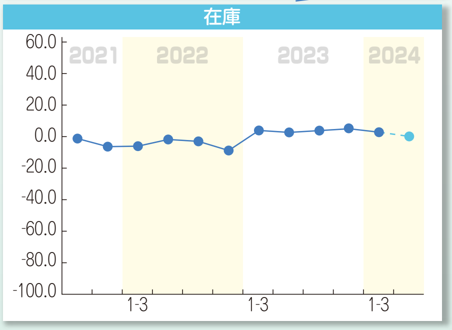
主要D・Iの推移

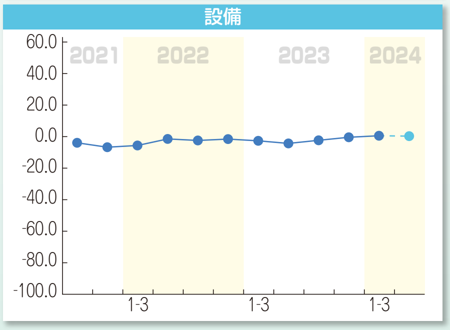
(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績　見通し









へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

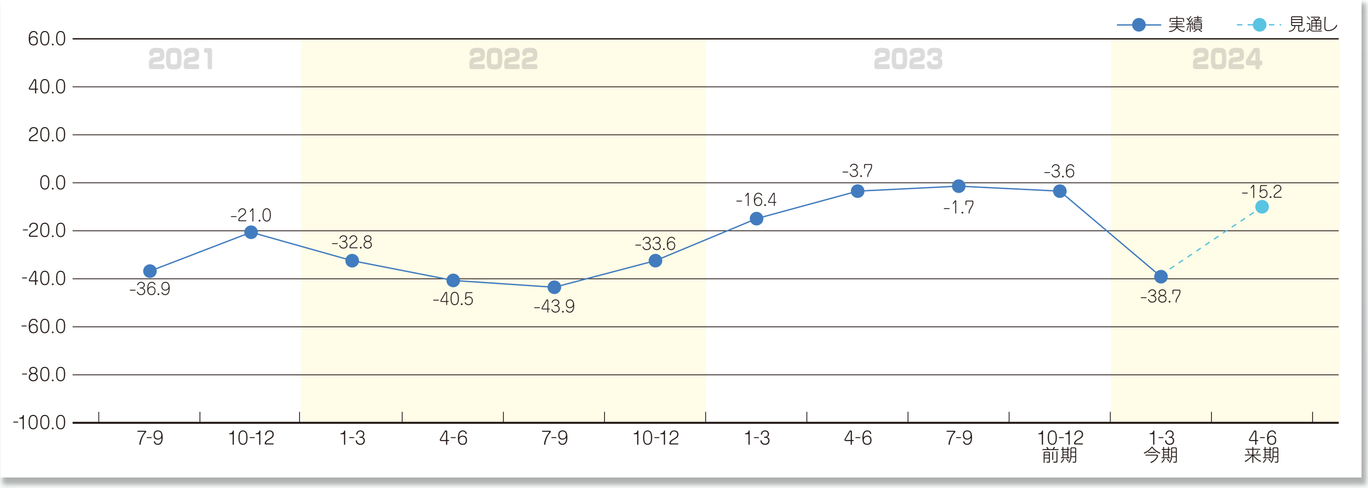
- 実施時期　2024年3月1日～7日
- 対象企業　310社
- 対象地域　西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方

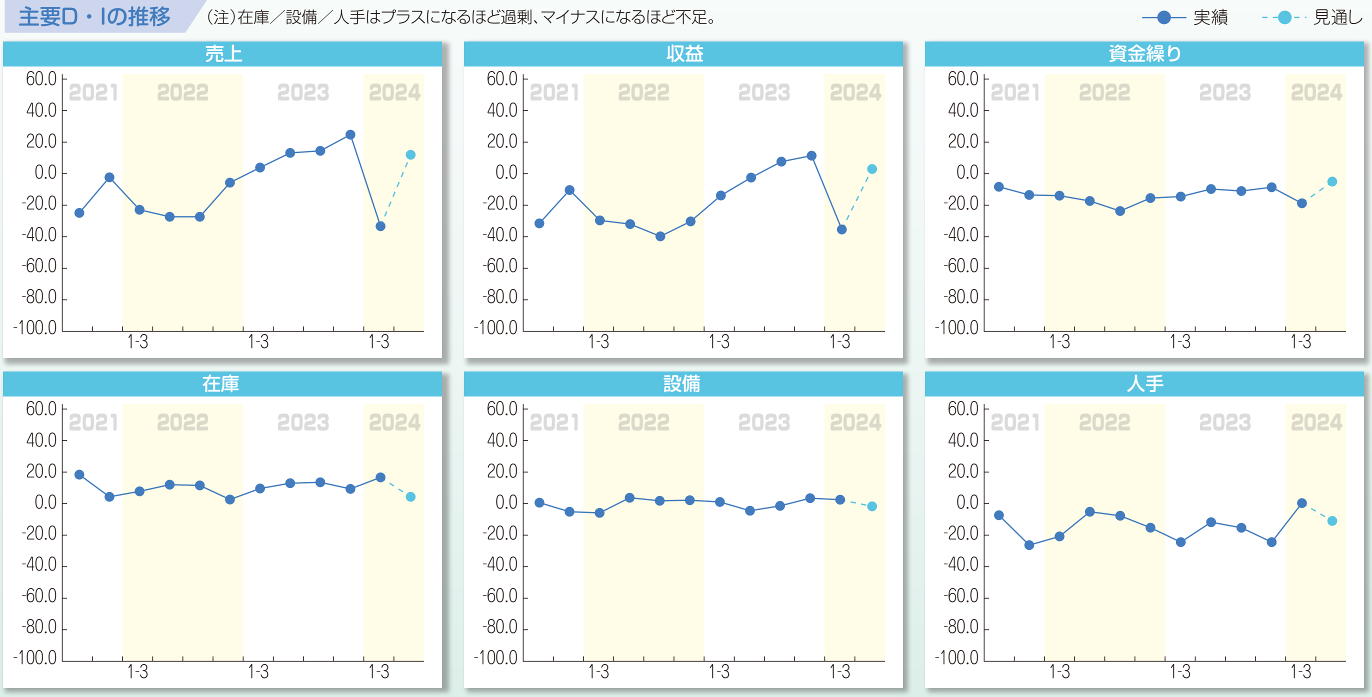
D･I(ディフュージョン･インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、〈良いまたはやや良いと答えた割合〉−〈悪いまたはやや悪いと答えた割合〉で求められます。

製造業　　回答数106社

今期の業況D･Iは、前期比35.1ポイント低下の▲38.7と、大幅に悪化。自動車メーカーにおける不正問題の影響を受ける企業が多く、売上、収益ともに大幅に悪化した。来期の予想業況D･Iは23.5ポイント上昇の▲15.2と、改善の見通し。価格転嫁のほか、業務効率化、内製化などにより、収益改善を見込むとの声が聞かれた。



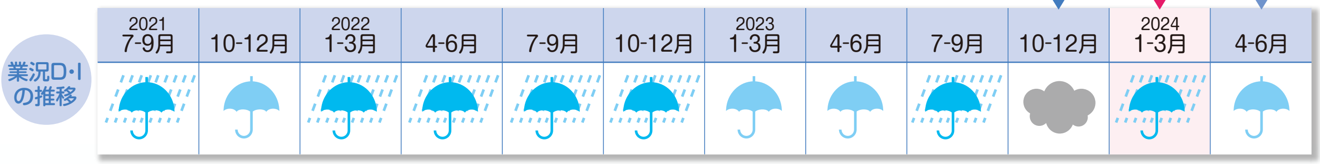
主要D・Iの推移　（注）在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

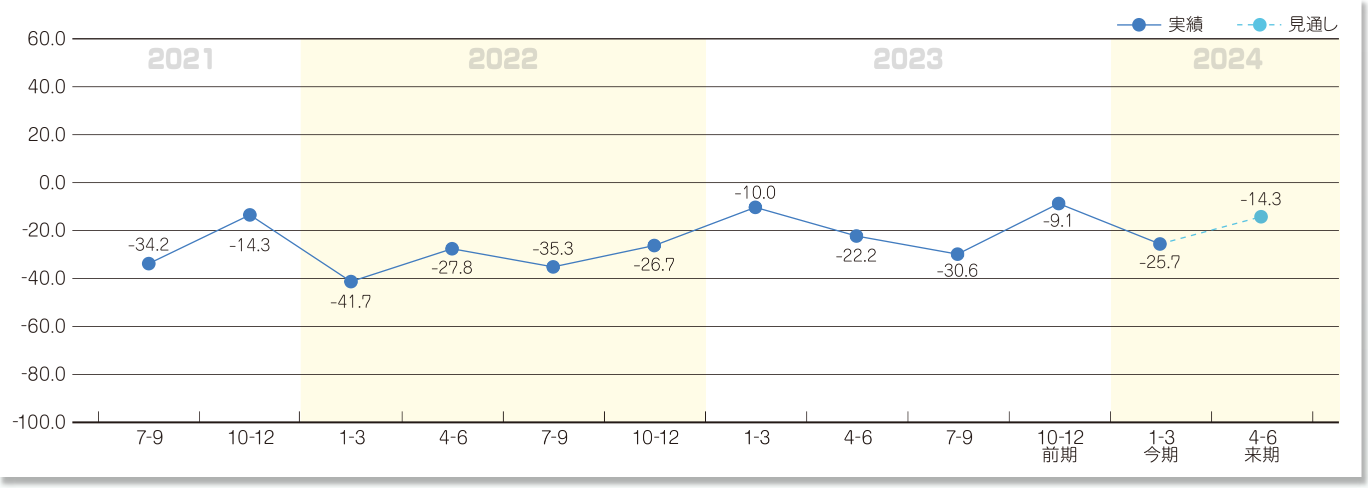


●ダイハツ、豊田自動織機の不正問題の影響により、先行き不透明な状況であるが、価格転嫁交渉が進んでおり、収益環境改善の兆し。（自動車部品製造）
●収益は減少傾向。販路の拡大と定着が課題。業務内製化による外注費の削減などにも取り組んでいる。（印刷）
●コロナ禍からの回復により、売上、利益とも増加しているが、主にエンジン関係からの受注を受けているため、今後予想される自動車業界の変遷に合わせ販路拡大中である。（機械製造業）

卸売業　回答数35社

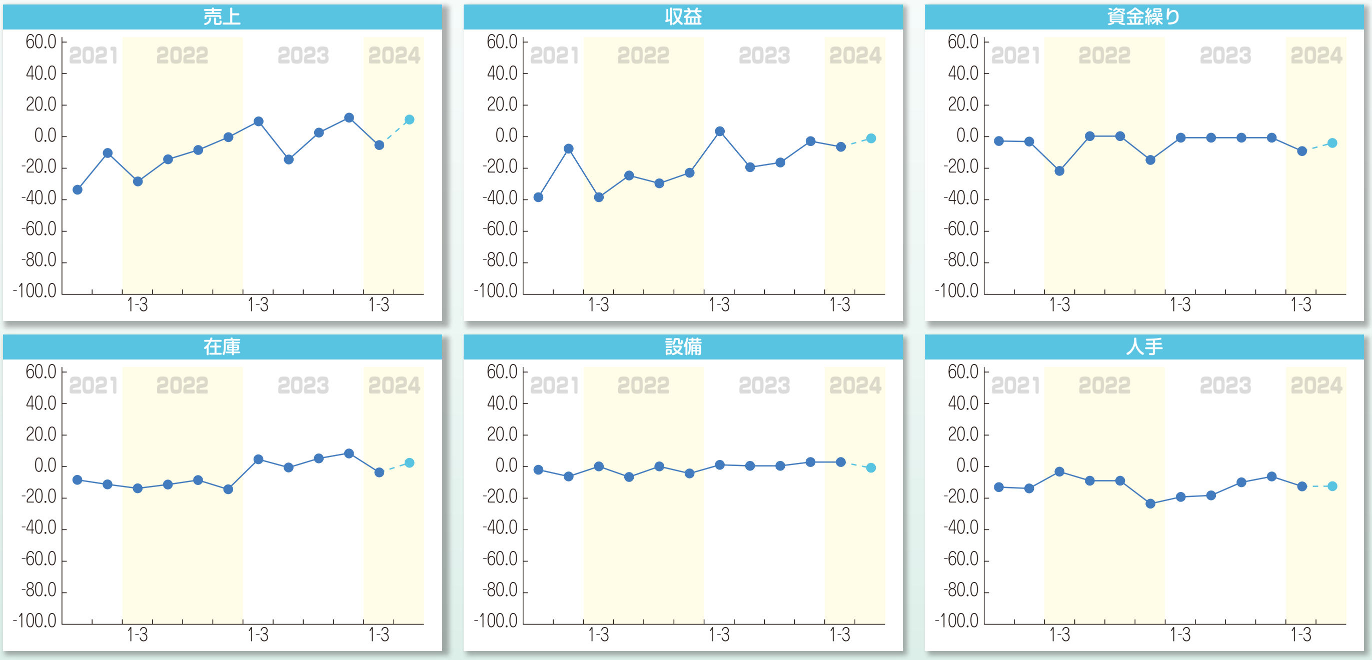
今期の業況D･Iは、前期比16.6ポイント低下の▲25.7と悪化。人材不足による受注機会逸失や自動車不正問題の影響などもあり、売上、収益ともに悪化。来期の予想業況D･Iは11.4ポイント上昇の▲14.3と、改善の見通し。業況の改善に向け、人材確保や経費圧縮などに取り組む企業も見られる。

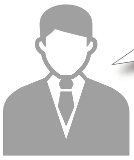




主要D・Iの推移

（注）在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

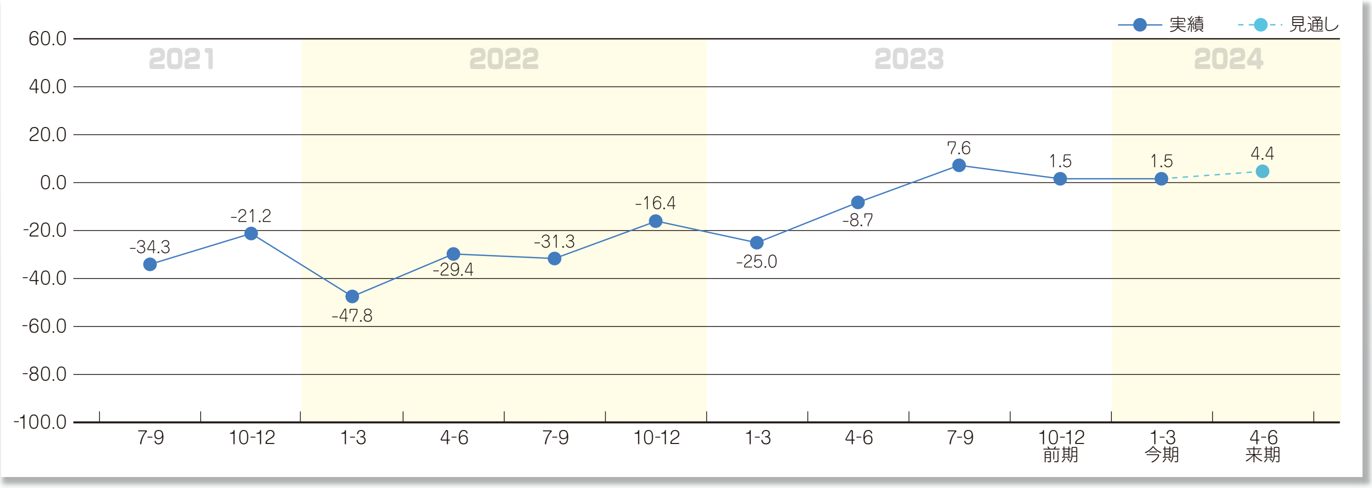




●機械の導入により、量産体制を図っている。来年度から外国人実習生を雇用し、さらなる生産性向上を目指す。（食品卸売）
●人材が不足しており、受注の増加が難しい状況が続いている。従業員の高齢化も進んでおり、採用が急務であると考える。（建築材料卸売）
●仕入価格、販売価格の上昇傾向は続く予想。円安による原材料費の高止まりを懸念している。（繊維品卸売）
●フォークリフト部門において豊田自動織機の影響があり、売上減少。平常化は今年の10月頃からと見込んでいる。（鋼板卸売）

小売業　回答数68社

今期の業況D･Iは、前期比横ばいの1.5となった。売上は、前期比では悪化したもののプラス水準で推移。経費削減などにより収益改善に努める企業が多いことがうかがえる。来期の予想業況D･Iは2.9ポイント上昇の4.4。売上、収益ともに改善が予想される。

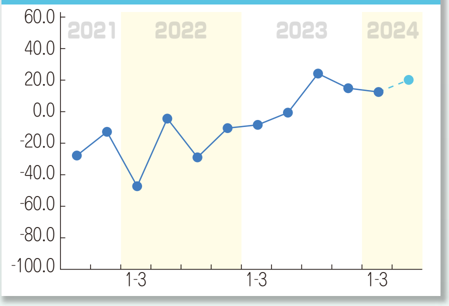


主要D・Iの推移

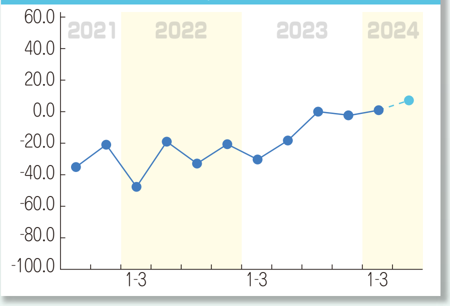
（注）在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績　見通し

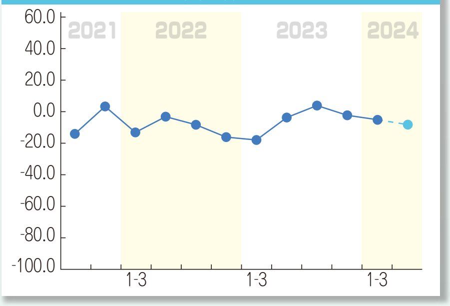
売上



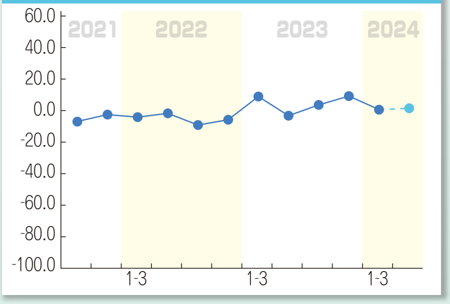
収益



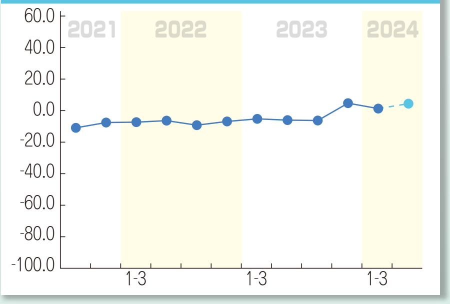
資金繰り



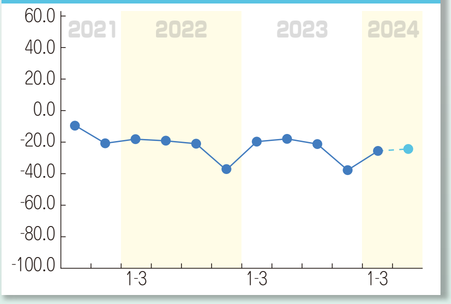
在庫



設備



人手



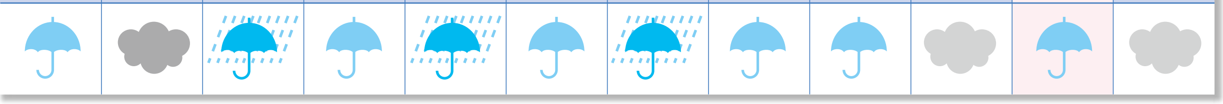
- ●以前より従業員不足や高齢化に悩んでいるが、なかなか対策が出来ていない。（自動車販売）
- ●各種コストが増加するなか、賃金の引き上げ等を行うために経費の削減に努めている。（食品販売）
- ●販売部門の売上は減少。レンタル事業の強化を図る方針。（呉服店）
- ●宅配はまずまずであるが、総売上はコロナ禍前には戻らない。特に酒類の回復が遅い。（飲食店）

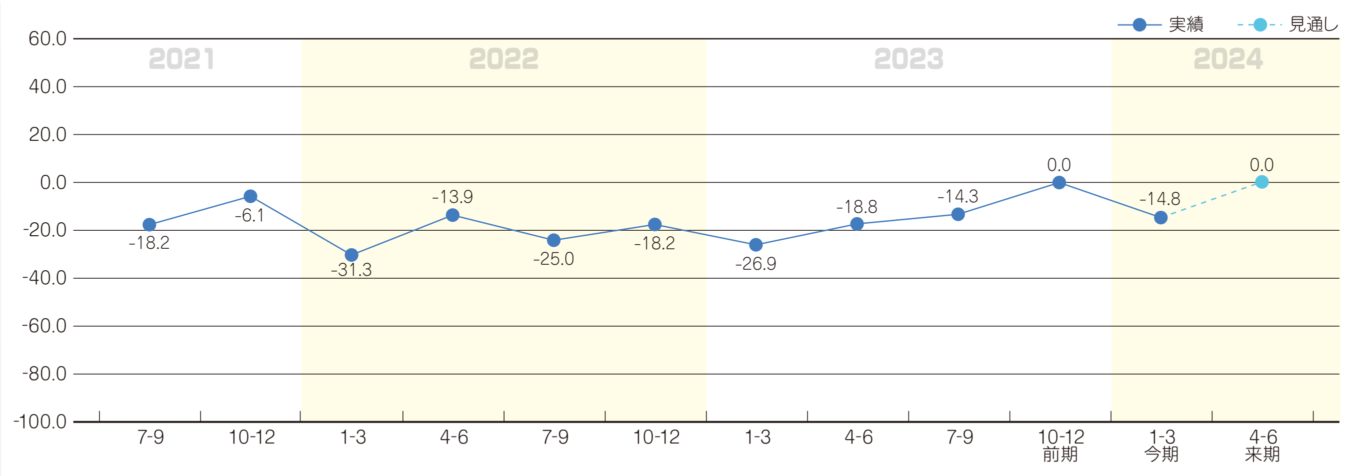
サービス業　回答数27社

今期の業況D･Iは、前期比14.8ポイント低下の▲14.8と4期ぶりの悪化。人件費など経費の増加により収益は悪化。人手不足は依然解消されず、引き続き多くの企業が課題としている。来期の予想業況D･Iは14.8ポイント上昇の0.0と、改善の見通し。販路拡大や価格転嫁など、売上、収益改善に向けて取り組むとの声も多い。

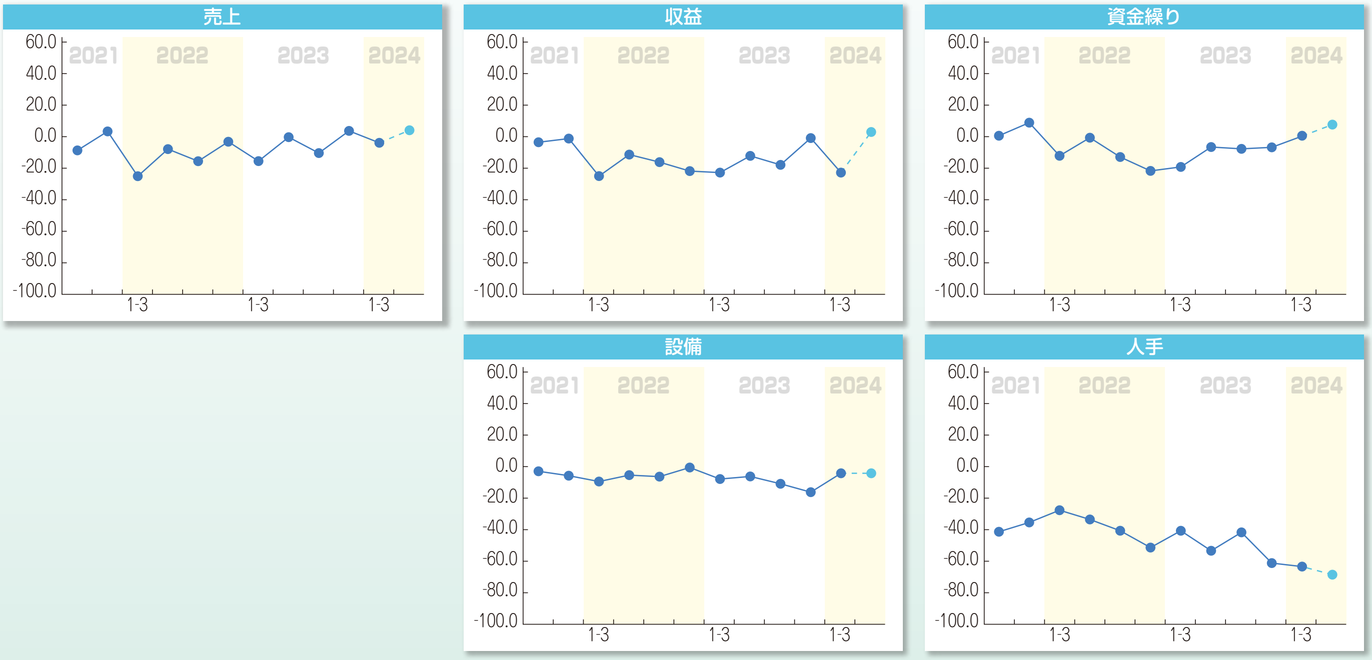
業況D･Iの推移

2021 7-9月	10-12月	2022 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2023 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月（前期実績）	2024 1-3月（今期実績）	4-6月（来期見通し）





主要D・Iの推移　（注）設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



●長年、人手不足と人材育成に悩んでいる。顧客満足度を高めるべく、セミナーに積極的に参加している。（エステティックサロン）

●今後賃金を2～4%ほど引き上げ予定のため、人件費増加が課題。原材料高騰の影響を受けているが、3月から値上げを行い、価格転嫁はできている。（クリーニング店）

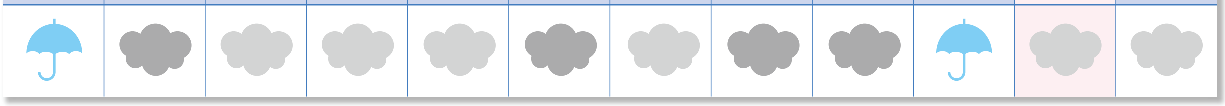
●同業他社との競合により売上が減るリスクを、販路拡大や技術の部分で補おうとしている状況。（理美容業）

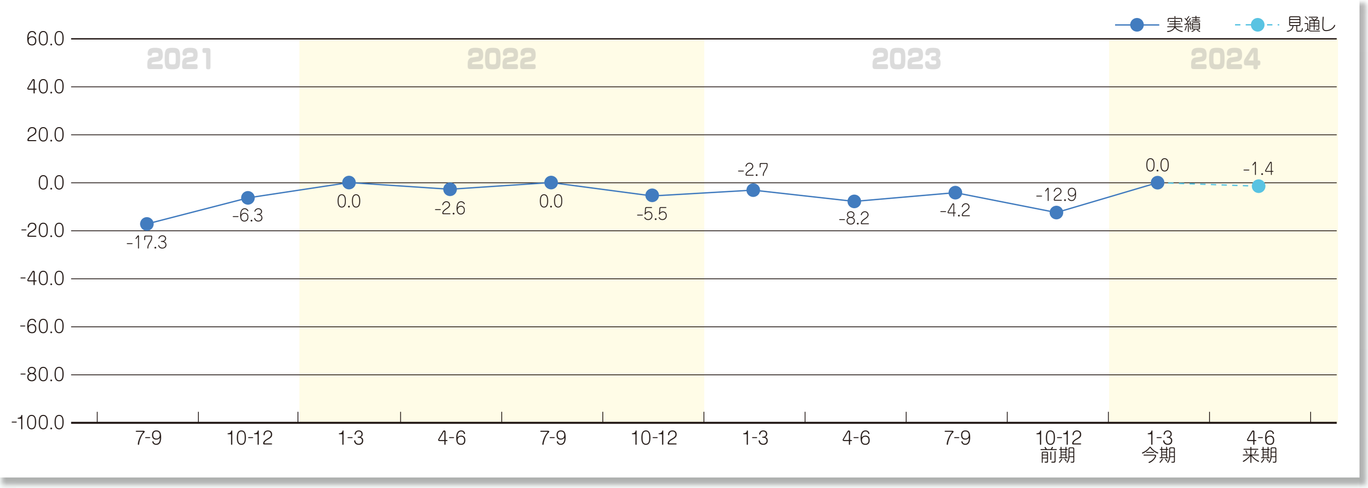
建設・不動産業　回答数72社

今期の業況D･Iは、前期比12.9ポイント上昇の0.0と、改善した。年度末にかけて工事増加などにより、売上、収益ともに改善した企業が多い。建設業では多くの企業が人手不足と回答した。来期の予想業況D･Iは1.4ポイント低下の▲1.4と、わずかに悪化の見通し。地価や資材価格、人件費上昇など、収益を圧迫する要因は依然多い。

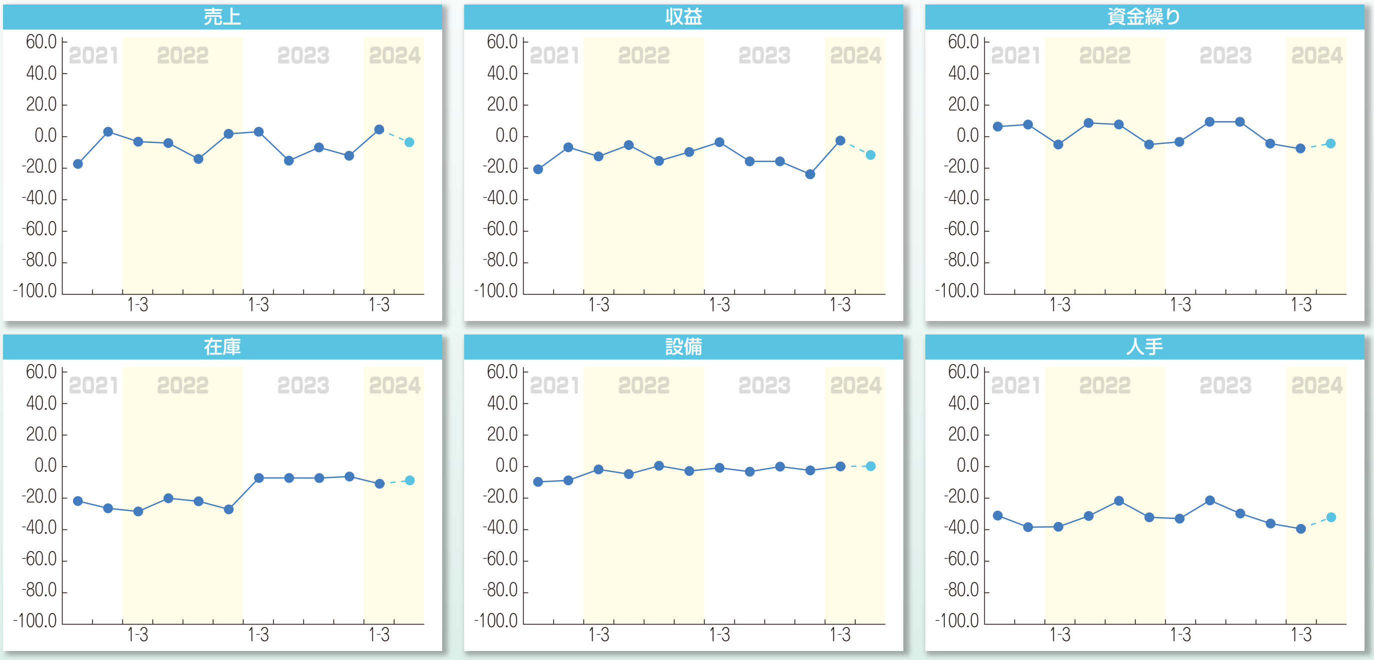
業況D･Iの推移

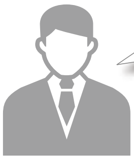
2021 7-9月	10-12月	2022 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2023 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月 (前期実績)	2024 1-3月 (今期実績)	4-6月 (来期見通し)





主要D・Iの推移　(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。





●業界として人手不足は課題ではあるが、一から育てるというより、即戦力となる人材が今は必要。外部研修を活用して、人材育成にも注力したい。(土木建築)

●今期、補助金を活用し異業種にもチャレンジ。人員も増加させ、増収へトライしている。(住宅建築)

●コロナの影響で値下げした家賃を元の賃料に戻せずいるのが課題。(不動産賃貸業)

●仕入価格の高騰に関しては価格転嫁できている。あとは販路を拡大できるかがポイント。(建売販売)